NIE実践報告

1．タイトル：地方自治と国民の生活～大分県を地方自治のモデルケースにしよう～

2．学校名

大分県立大分豊府中学校

3．実践者名（代表者名）

藤野　和也

4．学年

中学校３年生

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　３９人

6．単元（本時の学習課題）名

地方自治と国民の生活

7．目標(狙い)

新聞の読み比べをし、小グループ活動による言語活動をすることによって、大分県民としての自覚を高め、大分県の将来の姿を具体的に考えることが出来る。

8．評価の視点

（１）大分県民として将来の大分の姿についての提言を考えることが出来る。（関心・意欲・態度）
（２）理想的な大分県の地方自治の姿について具体的に考えることが出来る。（思考・判断）
（３）他の地方自治と比較する大分県の理想的な地方自治について整理、分析が出来る。（技能・表現）

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

第１次 わたしたちと地方自治・・・・・・・１時間
第２次 地方分権と住民参加・・・・・・・・１時間
第３次 市町村合併と地域づくり・・・・・・・１時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

① 地方自治について話し合い、私たちの生活に密着していることを知る。（１時間）
② 地方分権について学び、住民参加出来る方法について話し合う。（１時間）
③市町村合併と地域づくりについて資料を集め、その成果と課題について話し合う。（１時間）
④わたしたちと日本の政治について考え、大分県のこれからについて考える。（１時間）
⑤調べたこと等を班内でまとめ、発表会「大分県を地方自治のモデルケースにしよう」を行う。（１時間）

（留意点）
・大分県がどれくらい県民のために頑張っているのかという資料を収集する。
・実現不可能な提言ではないかどうか、班内でしっかりと話し合う。
・出来るだけ具体性を持たせる。
・提言の根拠となる資料（例　新聞記事等）の準備をする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

単元の導入時には、大分県についての愛着はほとんどの生徒に見られなかったが、授業を進めるにつれて、本気になって、”わがふるさと”の将来について考えるように変化が見られた。当日の授業でも、生き生きとした姿が見られた。

12．成果と課題

子ども達は、われわれが思っている以上にふるさとに対する思いが強いことがわかった。また、学習を深めていくと、次々にアイディアが浮かび、時間が不足することがわかった。もう少し課題を精選して与えるべきである。